

# 産業建設常任委員会記録

令和3年9月10日

【開催日】 令和3年9月10日

【開催場所】 第2委員会室

【開会・散会時間】 午後1時～午後1時21分

【出席委員】

委員長	中村博行	副委員長	藤岡修美
委員	岡山明	委員	高松秀樹
委員	恒松恵子	委員	森山喜久
委員	宮本政志		

【欠席委員】

【委員外出席議員等】

議長	小野泰	副議長	矢田松夫
----	-----	-----	------

【執行部出席者】

水道事業管理者	今本史郎	水道局副局長兼総務課長	原田健治
水道局次長兼業務課長	伊藤清貴	水道局総務課主査	矢田創

【事務局出席者】

事務局長	尾山邦彦	庶務調査係書記	岡田靖仁
------	------	---------	------

【審査内容】

1 所管事務調査 水道事業について

---

午後1時 開会

---

中村博行委員長 それでは産業建設常任委員会を開催いたします。本日の審査内容はお手元にありますように、水道事業についてです。これについて担当課から説明していただきます。

今本水道事業管理者 それでは、広域化の検討状況について御報告します。本日お配りした資料につきましては、これまで宇部市においても山陽小野

田市においても同じ資料で説明しており、宇部市におかれましては本年5月に産業建設委員会の委員に変更があったということもあり、これまで報告した内容も再度記載しております。本市の説明においては、これまでの経過を簡単に触れ、本年8月27日に開催しました検討委員会第13回会議の確認事項を中心に御説明します。では、資料の1ページを御覧ください。広域化を検討した経過を記載しており、これまで検討委員会を13回開催しています。2ページ目につきましては、両市の施設及び経営の状況を示しています。有収水量は、両市とも人口減少や節水などの要因から減少傾向にあり、これに連動して水道料金収入も減少しています。3ページ目は両市の施設の更新需要額を示しています。この資料では、法定耐用年数ではなく、実態に即した施設使用年数を設定し、その使用期間を経過する年の更新需要額を概算額で表しています。次のページからは、これまでの検討委員会を確認された内容です。資料の4ページを御覧ください。まず1、広域化の形態については経営主体も事業も1つとなる事業統合で確認しています。これにより財務会計も一本化となりますが、宇部地区、山陽小野田地区をセグメントで分け、情報の開示を行うこととしています。次に2、水道料金についてです。山陽小野田地区の水道料金は、広域水道事業開始時に宇部市の現行水道料金体系に統一することとしています。これにより山陽小野田地区では、現在のところ約7%の料金値上げとなります。次に3、浄水場の再編についてですが、宇部市の広瀬浄水場、中山浄水場と山陽小野田市の高天原浄水場の厚東川水系3つの浄水場を再編し、1つの浄水場とすることとしています。次に4、将来の更新需要額の比較についてです。両市がそれぞれ単独事業を行った場合と広域水道事業を行った場合の今後60年間の更新需要額の比較では、3で説明した浄水場の再編などにより、両市合計で約57億円の費用削減効果が期待できます。5ページからは検討委員会第13回会議で確認した内容です。5、財政シミュレーションの試算結果について、御説明します。この財政シミュレーションは、2022年度から2061年度までの40年間を期間とし、下の丸で囲ってある10項目の試算条件を基に算出しております。下の試算結果概略

図は、現在の水道施設を維持するための80年間分の更新需要額を80で割り、平準化した更新需要額を単年度更新需要額と設定し、新設、改良工事を行ったものとして算定した財政シミュレーションを、5つの色の帯で示しています。一番上が山陽小野田市単独事業の場合、一番下が宇部市単独事業の場合で、真ん中のオレンジ色が広域水道事業を行った場合のシミュレーションです。上から二番目と下から二番目は広域水道事業を行った場合の宇部地区、山陽小野田地区の内訳となります。検討委員会では事業統合による広域化としていますので、両市の単独事業と真ん中の広域版の合算を比較して御説明します。まず、山陽小野田市単独事業と広域版の合算を比較しますと、収益的収支の損益、赤字の時期と内部留保資金がショートする時期のいずれもが、広域水道事業となることにより大きく先延ばしとなっています。宇部市においても、広域水道事業体となることより先延ばしとなっています。次に、図中の黄色い丸と赤い丸について説明します。黄色い丸は収益的収支の損益の額が2億円以下となる時期で、料金改定の検討が必要な時期と考えています。赤い丸は収益的収支の損益が1億円以下となり、料金改定を実施する時期と考えています。赤色の丸を単独と広域版の合算で比較すると、両市とも広域水道事業となることにより先延ばしになります。これらの主な理由は、広域水道事業となる際に宇部市の水道料金体系を適用すること、浄水場の再編を両市で行うこと、共同する事務の効率化などで人件費の削減が図れることなどが考えられます。検討委員会では事業統合で確認しておりますが、現在のところ浄水場の再編までは両市の財政状況の確認するため、宇部地区、山陽小野田地区をセグメントで分け、整理することとしています。この度の検討委員会では、財政シミュレーションの試算結果や将来の更新需要額の比較など総合的に判断した上で広域化を進める方向で今後も協議を行うことを確認しました。今後の予定としては、検討委員会の検討結果を年度内に取りまとめ、報告したいと考えています。以上で宇部市山陽小野田市水道事業広域化の検討状況についての報告を終わります。

中村博行委員長 説明が終わりましたが、動きがあるのは改選後だと思いますので、本日は最小限の質問等にとどめたいと思います。聞いておかないといけない点がありましたら、しっかり聞いてください。それでは質疑を求めます。

藤岡修美副委員長 グレー、ブルーやオレンジに色分けしていますが、グレーが山陽小野田市、宇部市単独で、ブルーがセグメント別、そしてオレンジが理想的なようですが、どういう理由でこれが出てきているのか、説明をお願いします。

今本水道事業管理者 青色のセグメント別は、広域化したときに山陽小野田市と宇部市が地区別でそれぞれどれぐらいになるかを表したものです。真ん中のオレンジ色はそれらを合体したものです。セグメントで分けているのは、広域化するとそれぞれの地区の事業がどうなっているかが分かりにくいところがありますので、市民や議会に分かりやすく説明するためです。事業統合ですので、予算、決算や財務会計などについては一本で行うということにしております。

藤岡修美副委員長 損益の額が2億円以下になったら黄色の丸印が付いていて、損益の額が1億円以下になったら赤色の丸印が付いています。赤丸がレッドゾーンのように何か危ないように感じますが、この赤丸の時期に料金を改定するんですか。

今本水道事業管理者 山陽小野田市の部分は赤色の丸があって、黄色の丸がないですが、既に委員会にも報告しておりますように、単年度の純黒字が1億円と幾らかという数字がずっと出ています。そういうことで、もう黄色の丸印の段階は過ぎているという判断ですので、1億円を切ったときに赤色の丸になるんですけども、料金については宇部市と広域化するとき宇部市の料金に合わせるため、若干上がります。今後は事業統合をして広域化しますので、水道料金は山陽野田市だけ、宇部市だけが単

独で上げるということじゃなくて、同じ事業体になるので、一緒に上げるということになるかと思えます。だから、山陽小野田地区だけで見るとかなり厳しい状況ですけど、全体としては料金を上げるということではないということです。

岡山明委員 広域化するに当たって、宇部市と山陽小野田市でそれぞれ格差があると思うんです。宇部市が山陽小野田市に対してその格差を縮めてほしいと考えていけば、広域化で統合する前に山陽小野田市の料金改定を求めるといった話はないですか。山陽小野田市に関しては厳しい状況になっているから、早めに対応してほしいと要請されることはないですか。

今本水道事業管理者 広域化の話を進めるに当たって、管路経年化率というものがあります。2020年時点で山陽小野田市は40.4%、宇部市は16.1%で、管路の経年化、施設の老朽化については、山陽小野田市がかなり進んでいるという状況です。これにはいろいろと理由があるんですけども、山陽小野田市は、広域化を進める前に、平成28年に単独で料金を上げようということになったんです。しかし、市民のために料金値上げを数%でも下げるために広域化に取り組んでいますので、まずは財政基盤を強化しまして、広域化を進めて料金の値上げ幅を抑えたいと考えておるところです。

宮本政志委員 2ページの真ん中の施設利用率とその下の有収水量と損益、それらの数字のバランスが取れていないと感じます。そこは良いとして、値上げが7%ぐらいと言われたんですけど、2ページを見ますと、取りあえず宇部市に合わせるために7%値上げするけど、近い将来にまた上げなければならぬんじゃないかと思うんですよ。市民感覚から考えると値上げしないほうが良いというのがあっても、将来この料金でももたない気がします。もう、10%値上げするという前提で、宇部市も3%上げたらどうかという交渉はできるんですか。度々上げるんじゃなくて、ある程度将来を予測して上げておくという協議はできないんですか。

今本水道事業管理者 まず、山陽小野田市が宇部市の料金に合わせるというのは、この料金が適正だということではなくて、私どもの協議の中で、広域化したときには、同じ料金体系でなくてはいけないだろうということがあり、山陽小野田市に合わせるか宇部市に合わせるかで考えたときに、山陽小野田市の状況は非常に厳しいので、宇部市に合わせるほうが良いという判断をしています。それと、宇部市は現在、総合計画で当面は料金値上げをしないということになっています。これは10年ぐらい先のことなんですけど、全国の水道事業を見れば、人口減少と水道料金の減少というのはどこ事業体も同じ条件です。ですから、全国的に見てどの事業体も料金値上げをしないといけないんですが、宇部市は総合計画等で当面の間は料金値上げはしないと市民に言っており、それをPRしているようですので、広域化したからすぐに料金を上げるということにはならないんじゃないかと思います。ただ、広域化後に更新計画を作って、事業計画を作っていくわけですが、全体として市民に迷惑が掛からないような計画、漏水を防ぎながら、料金値上げを遅らせるという考え方で進んでいくだろうと考えております。

藤岡修美副委員長 先ほどの図に戻るんですが、本来の広域化だと内部留保資金がショートするのが2051年度以降です。しかし、セグメント別で見ると、山陽小野田市単独のときと広域化したときで内部留保資金がショートする時期が変わらないんですが、ショートしてしまったら山陽小野田市はどうなるんでしょうか。

今本水道事業管理者 この計画を作るときに当初の10年間は、現在私どもが予定している事業量で行くことになりました。浄水場の再編等合併の効果が出てくれば事業量も考えなきゃいけないんですけど、当面はそれぞれの市の事業量で計算しております。広域化後は山陽小野田市と宇部市とで改めて事業の更新計画を作る中で資金内部留保や財源企業債を勘案しながら、資金ショートにならないように計画を作るべきだと考えてお

ります。

藤岡修美副委員長 セグメント別で例えば山陽小野田市の資金がなくなった場合、宇部市の改良ばかり行うことになるんですか。

今本水道事業管理者 広域化後は宇部市、山陽小野田市という区分はなくなると思っています。一つの事業体として山陽小野田地域の管路の整備が必要になれば、当然それは行っていくべきだと考えております。ただ、当面はセグメントで分けてということがありますので、全体的な収支バランスを見ながら行っていこうと思います。どちらかの一方だけの地域の事業を行って、もう片方は行わないということにはならないと考えております。

中村博行委員長 値上げ率が先ほど7%ぐらいになるだろうということでしたが、前は15%以上の値上げ幅であったと思うんです。一番市民が使っている13ミリ、20ミリぐらいで、13ミリは24%ぐらいが使っていると思うんですけど、7%の値上げになったときに一番使うところがどのぐらいになるかということが重要だと思うんです。7%の値上げで一番使う辺りはトータルで大体どのぐらいだと見ていますか。概算で構いません。

原田水道局副局長 全体的な料金体系の表がありませんので、申し訳ございません。手元にある令和2年度の料金の資料で言いますと、山陽小野田市と宇部市の家庭用の料金の違いは、13ミリで10トンの場合、山陽小野田市が1,584円、宇部市が1,243円です。それから20トンの場合は、山陽小野田市が2,904円、宇部市が3,091円です。山陽小野田市は単価が一定ですので、使用料に比例して料金が上がっていきませんが、宇部市は一定の水量を使うと単価が上がるという料金体系ですので、以降の水量は、山陽小野田市に比べて宇部市の料金が高くなります。

中村博行委員長 いずれにしても、改選後の審査になると思います。ほかにはよろしいですか。（「なし」と呼ぶ者あり）以上で審査を終わります。

---

午後 1 時 2 1 分 散会

---

令和 3 年（2021 年）9 月 1 0 日

産業建設常任委員長 中 村 博 行